

雲の平(鷲羽岳&黒部五郎岳)山行報告

【山行日】 2014年 7月 26(土)~29(火)

【集 合】 野木町島田宅 AM 6:00

【費 用】 マイカー1台 : 3,200円

【メンバー】 CL:鈴木、大西、関、渡辺

7月26日(土) 折立から太郎平を越えて薬師沢小屋へ

鈴木宅 2:00=折立登山口 P6:50/7:30~1871m P9:15~太郎平小屋 11:40/12:30~薬師沢小屋 15:00

いよいよ今年の夏山登山メイン山行『雲の平から黒部五郎岳』がスタートした。

登山口の折立に着くと手前から渋滞していた。駐車場が満車で、駐車場所を探す車で渋滞していた。我々は渋滞の車の脇を通り抜け、第二駐車場へ向かう。第二駐車場は折立休憩舎の手前を右に折れ、500m位先の右側にあり30台位止められる。出発の準備を整え、7分くらい歩いて休憩舎に着く。トイレを済ませ、ストレッチを入念にし

出発する。登り始めると、すぐ左手に愛知大生遭難の供養塔があり手を合わせる。ここからしばらくは、展望のない樹林帯が続く。最初のワンピッチはとにかくゆっくりと登り、寝不足の体を登りに慣れさせてゆく。後から出発した登山者やグループに、次々と追い越されてゆけど、気にせずゆっくりと登る。

1時間位歩き、体が慣れてくると少しピッチを上げ、追い越されたグループを追い抜いた。1871mの三角点で休憩をとり、カメラを車に忘れてきたことに気付いた。戻って取ってくるよう言われたが、ここまで登ってきては戻れない。

ここからは、これまでの登りとうって変わって、草原と樹林が交互に続き、展望の良い道になる。

左手には立山アルペンルートの弥陀ヶ原や薬師岳、右手に有峰湖が見渡せる快適な歩きだ。

最高の天気で、日差しが強いが吹く風も心地よく、ニッコウキスゲやコイワカガミの花に疲れも感じない。抜きつ抜かれつのグループに行き先を尋ねると、今日は薬師岳山荘泊りで、明日薬師岳に登ると言う方がほとんどだった。新しく建て替えられた薬師岳山荘が人気のようである。

太郎平小屋に到着し昼食を摂るが、とにかく暑いので日陰の場所を探してテーブルに座るが、我輩だけ日が当たる場所、暑い!! 薬師岳や、明日登る雲の平から鷲羽岳、明後日登る黒部五郎岳の雄大な景色を眺めながら、味噌ラーメンを美味しく戴く。携帯で記念写真を撮り薬師沢小屋に向かう。太郎平小屋から50m位南に行ったところに、黒部五郎岳方面への道との分岐がある。分岐を左手の山腹を巻く道の方へ進む。尾根伝いの下りを200m位降りたところが、薬師沢の源流と出会う第一渡渉点。

さらに5分ほど進むとしっかりした橋が架かっている第二渡渉点。渡渉をするたびに登り返すので結構きつい。薬師沢の左俣を越す第三渡渉点を過ぎ、木道を歩くようになると、やがてカベツケが原と言う小さな湿原に着く。快適なベンチがあり、ニッコウキスゲが疲れを癒してくれる。

木道が終わり、黒部川と薬師沢に挟まれた急な尾根を下ると薬師沢小屋に着いた。

我々4名は1室貸切で超ラッキー。女性たちは自炊部屋の流し場で体を拭いてくると出て行く。

我輩は小屋の前のテラスで冷えたビールを思いっきり戴く。黒部川と薬師沢に面したテラスはとても涼しくて、疲れた体を元気にしてくれた。天気予報を見ると、明日は雨模様の天気ようだ。ところが7時過ぎの天気予報では、なんと晴れの予報に変わっていた。明日の晴れを信じて床に就く。

7月27日(日) 薬師沢小屋から雲の平を經由し黒部川源流を渡渉し三俣山荘へ

薬師沢小屋 4:45~アラスカ庭園 7:00/7:20~雷岩 8:20/8:35~祖父岳中腹 9:15~雪溪 10:00~

黒部源流渡渉点 11:00/11:10~三俣山荘 12:00/13:45~鷲羽岳 14:35/14:45~三俣山荘 15:30

朝4時に起き、すぐ外に出て空模様を見ると雨は落ちてない。昨夜の天気予報が外れないよう祈りながら出発する。小屋の前の吊り橋を渡り、すぐに黒部川にハシゴで降りる。100m位下流に向かって進



むと、右手に雲の平への道標がある。最初にハシゴがあり、そこから樹林帯の中に向かって急な道が続く。一步一步踏みしめて、ゆっくりとマイペースで登って行く。大きな岩が重なった所に、木の根が重なり滑りやすい道だ。空は明るかったが、1時間ほど登ったところから遠くで雷鳴が聞こえ、雨が落ちてきた。大した降りではないので、そのうち止むだろうと思っていたが少し強くなってきた。レインウェアの上衣だけ着て、登って行くと樹林の高さが低くなり傾斜も緩くなってきた。

雲の平の一角であるアラスカ庭園に着き、小屋の弁当で朝食を摂る。空がますます暗くなり、雨も止みそうにないので、レインウェアのズボンをはいた。

アラスカ庭園からは、良く手入れされた木道が延々と続く。これまでの急登が嘘のように緩やかな道で、天気良ければ水晶岳や黒部五郎岳を眺めながらの快適な道である。しかし今日は雲が厚く垂れこめて眺望は得られない。でも雨は止み、周りは結構明るくチングルマやハクサンイチゲ、コイワカガミ等の花々が彩りを添えてくれ、目を楽しませてくれる。天気が悪いので、祖母岳や雲の平山荘は寄らずに先へ急ぐ。大きな岩の間に掛けた木道の下を、雪解け水が流れその周りにお花畑が広がっている。キャンプ場手前の広いベンチで大休止。お茶を飲みながらのんびりと周りの景色を楽しんでいると、また雨が降り出してきた。祖父岳分岐で「天気が良くないので、短縮コースを行きたい。」と要望がでる。でも『この先雪渓を下る道で不明瞭。渡渉もあるので使用しないでください。』との看板がある。たまたま登って来た人がいたので、状況を聞いてみると「雪渓は大丈夫、渡渉も渡る場所を選べばそれほど危険はない。」との事なので、短縮コースに行くことにした。

雪渓はベンガラマークがあり、見落とさないように歩けば問題ない。雪渓を過ぎると急な下りとなるが、シナノキンバイやミヤマキンポウゲが目を楽しませてくれる。いよいよ黒部源流の渡渉に掛かる。さっき会った人は「渡渉点の看板より、10m位下流の方が安全と小屋の人に言われたので、そこを渡った。」と言っていたので探したが、増水してとても渡れそうもない。やはり渡渉点の看板の掛かった場所が、一番安全そうなのでそこを渡ることにした。良く見ると、冠水していても足を置ける岩があるので、その場所を皆に教えながら渡った。全員無事に渡り終え、対岸で休憩していると35名の団体が来て渡渉を始めた。と先頭のリーダーが足を滑らせ、水の中に落ちた。それを見て後続の人たちはパニックに。結局その場所は渡れず、かなり上流まで行き渡っていった。

雨も上がり、小屋まではあと45分くらい。花を楽しみながらのんびり歩き、屋前に三俣山荘に着いた。晴れてきたので、小屋前のベンチでラーメンを作り昼ごはん。雲も取れ槍ヶ岳から北鎌尾根、硫黄尾根まではっきり見え、眺望を楽しみながら食べる。部屋に戻るとザックを背負って出かける人がいた。どこに行くのか聞くと、鷲羽岳に登ると言う。時計を見ると2時30分、今登れば夕食までには楽勝で帰ってこられる。Sさんに「今から登れば間に合うから、鷲羽岳に登るかい。」と聞くと「是非登りたいです。」と。他の二人に聞くと「前に登っているのでパス」との返事。二人なら2時間で行けるだろうと、雨具と水だけ持って出かける。少し風が強いが、晴天でとても気持ち良く登れる。

先行者を数人抜き、50分で山頂に着いた。山頂からは360度の大展望、北アルプスの名だたる百名山がほとんど見渡せた。カメラが無いのが残念だが、Sさんもしっかりと目に焼き付けたと思う。

下りもスイスイ降り、40分で山荘に到着。談話室で飲んだビールが最高にうまかった。

7月28日(月) 三俣山荘から五郎のカールをへて黒部五郎岳登頂し太郎平小屋へ

**三俣山荘 4:40～三俣蓮華岳 5:50～黒部五郎小屋 7:00/7:20～五郎のカール 9:00～五郎の肩 10:00
～黒部五郎岳 10:20/10:30～五郎の肩 10:40～2555mP12:00/12:30～赤木岳 13:50～北ノ俣岳 14:30
～太郎平小屋 16:05**

朝4時に起き、小屋の外に出ると雲一つない快晴、心の中でヤッターと叫ぶ。はやる気持ちをおさえて、入念にストレッチを行い出発する。小屋の方に「三俣蓮華の巻道は、雪渓が危険なので山頂経由で行ってください。」と言われたので、三俣蓮華山頂へ向かう。山頂からは360度の大きなパノラマで、槍穂はもちろん薬師岳、水晶岳、鷲羽岳が朝日に輝き素晴らしかった。山頂で存分に眺望を楽しみ、黒部五郎小舎へ向かう。巻道と合わさる黒部乗越まで、結構時間が掛かり予定よりも30分オーバーし黒部五郎小舎に着いた。小屋の前のベンチで朝食タイム。

三俣山荘の弁当は、ちまきが3個におかずが付いてとても美味しかった。トイレを済ませ、気合を入れて今回のメインの山黒部五郎岳に向かった。ルートは稜線上を登るルートと、カールを通って行く



ルートがあるが、カールの底から見上げる黒部五郎岳が素晴らしいのでカールに向かった。

沢沿いの道をゆるやかに登り、下りきった所から巨岩が現れると残雪の清冽な流れの中を歩くようになる。残雪とお花畑のコントラストが素晴らしい。カールの底からの眺めは、北アルプス屈指のビューポイントで素晴らしい。ここで休憩をとりティータイム。雄大で豪快な黒部五郎岳の山腹と、お花畑を眺めながら贅沢な時を過ごす。カールを抜けると肩への登りとなり、ジグザグに登るとやがて稜線に出、少し進む

と肩に着く。肩にザックをデポし空荷で山頂へ向かう。山頂に着くと、ガスが上がってきて眺望は良くなかったが、それでもカールや北ノ俣岳は良く見える。徳ちゃん96座目の百名山。と、その徳ちゃん目から涙があふれ出し泣き出した。今年の春に足を痛め、今シーズンは山は無理かと思い悩んでいたの、歓喜の涙がこみ上げてきたようだ。全員でバンザイをして、携帯で写真を撮り下山する。ここからまだ先が長いので、2555mP まで行って昼食にする。難関の黒部五郎岳を登ったので、皆さん美味しそうにラーメンを食べていた。赤木岳までは快適な稜線歩きで、お花や景色を見ながら楽しく歩いていたが、北ノ俣岳の登りあたりから疲れが見えてきた。ペースが遅くなり、コースタイムよりも遅れ始めた。北ノ俣岳によく登り最後の休憩をとる。ここから太郎平小屋までコースタイムで1時間25分。下りなので楽勝かと思いきや、登山道が雨で深くえぐられ歩きにくい。おまけに登りが何か所もあり、皆さん言葉も出なくなった。やっと小屋の赤い屋根が見え、元気を取り戻してペースアップ。計画より5分遅れたが、ほぼ予定通り太郎平小屋へ到着。

本当にお疲れ様でした。到着が遅いので、夕食は2回目の5時45分から。明日は下るだけなので、外のベンチで祝杯が進む。歩いてきた山を見ながら飲むビールは格別に美味しかった。

7月29日(火) 太郎平小屋から折立へ下山し、温泉で汗を流し帰路につく

太郎平小屋 6:15~1871mP8:10~折立 P9:25/10:00=白樺ハイツ 10:30/11:10=鈴木宅 16:30

夜中に外に出ると満天の星空、今日も快晴を確信した床に就く。

久しぶりに温かい朝食をいただき、とっても美味しかった。準備を整えて外に出ると、折立に下る人はほとんどいない。ストレッチをしてのんびりと下り始める。我々の前に夫婦が歩いていましたが、途中のベンチで朝食を食べていた。バス時間が遅いので、朝食を食べてゆっくり降りるとの事。

我々4人貸切で薬師岳や有峰湖を見ながらのんびりと下る。登りでゆっくり見られなかったお花畑も、足を止めてゆっくり見られた。2196mのベンチ手前で本日一番の人が登って来た。1871mのピークを過ぎると、登り的人が増え待たされるようになる。皆さん暑さと急登でとても辛そうで、待っていてもなかなか登ってこられない。こんな状態で待ち時間が長くなったが、予定の時間に折立に着いた。車を取ってきて、靴を履きかえ温泉に向かう。去年、薬師岳縦走の時利用した「白樺ハイツ」に寄った。白樺ハイツは有峰林道ゲートを出てすぐの所にあり、時間のロスが無く便利である。

温泉も広くてゆったりでき、登山の汗を流すのに絶好の温泉である。昼食もここで食べられるが、時間が早いので有磯海 S/A で食べることにした。有磯海 S/A に着き、20食限定の海鮮丼を食べようと券売機に並んだが、我々の前で売り切れた。残念！！

途中渋滞もなく、順調に走り栃木に4時30分に着き、今年の夏山メイン山行が終了した。